

今月の15首

佐佐木幸綱・選

地の奥に七十日をどぎざされてすくひだされていつか死ぬひと

暑くない寒くないこの曖昧で掴みきれないほどの快適

女優業地道な作業重ねつつライトをもらえば飛ぶ力あり

曾祖父と曾祖母の名を確かめる墓碑に積もりし雪を払いて

庭石の陰に銭苔傘を立つ雨降らば守らむもののあるらし

椋鳥をなかば隠せる蒲公英のまるきあたまに高き低きあり

雨の日のひとりの時間を連れてきてぼつぼつ座る映画館ミニシアターに

窓からは天候分からぬ夕つ方電話数本内示まだなし

推敲に推敲かさねつたなくも詠まねばならぬ大地震なみの歌

志は天に向けよと泰山木夏さきがけてかつきりと咲く

液化してゆくのか長き顎ヒゲも怒り祈りも水葬されて

目つぶれば小夜時雨なり熟れ蚕こなる白きうねりが桑食む音は

桜咲き散り若葉の季ときとなりまだ揺れてゐることからだ

眠れぬと母のこぼせる真昼間を夜としてわれも眠れずにおり

たくさんの玩具の中にいたのだが大きくなつたのは私だけ

矢部 雅之

木村 俊介

矢代 朝子

田中 拓也

高山美智子

横山未来子

鈴木 陽美

黒岩 剛仁

片岡なおこ

鳥居かほる

大野 道夫

花 美月

荻野美佐子

クリシュナ智子

武藤 義哉